

一仏両祖の教えを今に伝える

曹洞禅グラフィック

SŌTŌZEN GRAPHICS

2020 秋号 No.154

インタビュー

哲学者

内山節

草木国土悉皆成仏

新型コロナウイルスとの共生にあたって
日本仏教の意義を考える

世

界を巻き込んだ新型コロナウイルス・パンデミックを通して、人びとはこれまでで経験したことのない「このころの問題」を抱え込んでいるように思われます。それをもちたらしめているのは「変化」でしょう。仕事の仕方が



ら日常の暮らし方、人とのかわり方などが根本的に変わったことで、戸惑いや迷いのなかに投げ込まれ、どうしたらよいかわからないでいる。そこに問題の本質がある、とわたしは考えています。

早急に見出すべきはころの抛り所です。ころにしつかりとした抛り所があれば、生きていく状況、環境がどんなものであっても、戸惑ったり、迷ったりすることはありません。抛り所を見出すうえで、大いなるヒントを与えてくれるのが禅です。禅の智慧、すなわち、禅の考え方、ものの方、行動の仕方を知り、そして、実践することが、抛り所にいたる道筋を示してくれるのです。

禅は自然をととても重要なものとして捉えます。自然は真理そのものを余すところなく、そこに現れている。まるごと真理をあらわしている。それが禅の基本的な考え方です。道元禅師が詠まれたこんな歌があります。

峯の色 溪の響も みなながら わが釈迦牟尼の 声と姿と
 峯の色、溪の響は自然を象徴しています。その自然のすべてがまさしく、お釈迦牟尼の



お声であり、お姿である、と道元禅師はいつておられるのです。言葉を換えれば、自然のなかに身を置くこと、自然と触れ合うことは、そのままお釈迦様の説法をいただくことに等しい、とっていいでしょう。

実際、自然と触れ合っていると、ころが癒やされたり、ころが穏やかになったり、清々しくなったりしませんか？ 自然にはお釈迦様の説法効果“がたしかにあり、それは誰もが感じとれるもの

いまこそ 禅にふれるとき

である、とっていいのではないのでしょうか。

これまでの生活は自然との触れ合いが少ないものだった。そう感じている人は多いのではないかと、想像します。コロナ禍はいきつかけになりそうです。これから意識して自然と触れ合う機会をもっていかげしょう。そして、

ころに吹き込む清浄の風を感じてください。それはそのまま禅の実践でもありますし、自分のなかに確たる抛り所を見つげるための着実な一歩でもあるのです。「しかし、近くに自然らしきものがない」。都会暮らしのそんな方に、手始めにおすすめたいたのが禅寺の散策です。

都会の禅寺にも、あるいは近郊の禅寺に行けば、必ず、竹林や緑の木立があります。十分、自然と触れ合うことができはらずです。禅即行動。早速、でかけてみませんか？



ますの・しゅんみょう

1953年、神奈川県生まれ。建功寺（横浜市鶴見区）住職。多摩美術大学環境デザイン学科教授。住職でありながら庭園デザイナーとしても高い評価を得ている。祇園寺紫雲台庭園『龍門庭』など国内外多数の庭園作品を手がける。『心に美しい庭をつくりなさい。』など著作多数。

澄心庭(神奈川県 個人邸宅内)

枡野俊明

いまこそ「禅」にふれるとき	榎野俊明	2
哲学者 内山節インタビュー 草木国土悉皆成仏 新型コロナウィルスとの 共生にあたって 日本仏教の意義を考える		4
毎日書道	松山妍流	13
動じない私を築く「四法印」の心得 <small>しほういん</small>	藤井隆英	14
生活の中の仏教 脱プラスチック	久保田永俊	16
「お寺の子に生まれて幸せでした」		18

表紙画 / 平川恒太
コロナ禍の終息を祈り「薬師如来」、秋の豊作を願う

季刊「曹洞禅」2020年秋号「通巻154号」令和二年九月一日発行（第二種郵便物認可）
発行所「俳仏教企画」〒151-0116 相模原市緑区城山四二一五 電話04277033
<http://www.bukkyo-kikaku.com> 〒547-0291 マルパデザイン 印刷所「恒信印刷」

発行人「藤木隆宣」
定価1000円

新・幸福論

「近現代」の次に来るもの



内山節 著
新潮選書

定価：本体1100円〔税別〕

最寄りの書店にて直接おもとめください